

水族館のイルカから学ぶ

校長 鈴木雄詞



先日、2年生の子どもたちが生活科見学で名古屋港水族館に出かけました。秋は校外学習(バス見学)の季節です。社会科や生活科の学習では、実際に自分の目で見たり、手で触ったり、人からお話を聞いたりして知識を広げていくことが大切です。今はICTの導入により、動画や画像、統計資料などのコンテンツが充実しており、一見、座ったままで学習ができるものと思いがちですが、未だにこのような機会はとても貴重なのです。2年生の子どもたちも、笑顔いっぱいに出かけていきました。

私も、この名古屋港水族館には何度も自分の子どもたちを連れて行ったことがあります。そのたびに「イルカショー」を楽しみにしていました。イルカの一生懸命芸を披露する姿と飼育員さんとのやり取りがとてもピュアで温かいからです。

イルカはとても知能が高く、学習能力・社会性に優れています。調教師との間には「信頼関係」といえるようなきずなが築かれていることが多いとされています。調教師さんがいつも安全に接し、えさや遊びを通してポジティブな経験を積ませると、イルカはその人に「安心感」をもち、逆に、乱暴に扱えば人を避けたり、指示に従わなくなったりする例もあるそうです。実際に、関係を築いた調教師さんがお休みした日は、イルカがそわそわしたり、再開したときに明らかに喜ぶ様子を見せたりする姿が観察されているとのこと。

一概に人に置き換えるのは乱暴かもしれませんが、私たちも人との関係を築くためにはこの「信頼関係」が最も大切だと思います。私たち教師と子どもたちや保護者の皆さん、地域の皆さんとの間に「安心感」があり、「信頼関係」が築いていけるよう、日々、精進していきたいと考えています。

学校の様子はホームページからもご覧いただけます。→

